

小 学 校

平成 2 8 年度

教育研究員研究報告書

社 会

東京都教育委員会

目 次

研究主題設定の理由	1
第3学年及び第4学年分科会研究主題	
I 研究主題設定の理由	2
II 研究の仮説	2
III 研究構想図	3
IV 研究の内容	4
V 実践事例	6
VI 研究の成果	8
VII 研究の課題	8
第5学年分科会研究主題	
I 研究主題設定の理由	9
II 研究の仮説	10
III 研究構想図	10
IV 研究の内容	11
V 実践事例	12
VI 研究の成果	16
VII 研究の課題	16
第6学年分科会研究主題	
I 研究主題設定の理由	17
II 研究の仮説	18
III 研究構想図	18
IV 研究の内容	19
V 実践事例	21
VI 研究の成果	24
VII 研究の課題	24

研究主題

社会的事象の意味や特色を考える児童の育成 ～追究の視点や方法を用いた指導の工夫～

I 研究主題設定の理由

本年度4月及び5月に各研究員が担任をする学級の実態を分析したところ、「問題解決的な学習の充実に取り組んではいるが、児童に社会的事象の意味や特色を考えさせるための手だてが不十分であり、児童の発言や記述は社会的事象の事実を羅列するだけになっていることが多い。」という課題が見いだされた。また「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」には、現行学習指導要領の課題として「資料から読み取った情報を基にして社会的事象の特色や意味などについて比較したり関連付けたり多面的・多角的に考察したりして表現する力の育成が不十分であることが指摘されている。」と述べられている。

本研究では、これらの課題の改善を図るためには、児童に社会的事象の意味や特色について考えるための手段を身に付けさせることが必要であると考え、「追究の視点や方法」を用いた指導の工夫を行うこととした。

具体的な指導の工夫について検討する際、本研究では前述の「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」において示されている、「社会的事象の見方や考え方」に注目した。「社会的事象の見方や考え方」は、「問題解決的な学習において、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想したりする際の視点や方法」と説明されており、「追究の視点や方法」とも示されている。本研究では、例示されている追究の視点（位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係）や方法（比較、分類、総合、地域の人々や国民の生活と関連付ける）を、どのように実際の授業に取り入れていくか検討を行っていくことで、研究主題に迫ることができると考えた。

はじめに、授業前に行う教材分析や指導計画の作成を「追究の視点や方法を用いた授業づくり」と称し、各分科会共通の手だてとして位置付け、追究の視点や方法を授業の中でどのように活用できるのか検討を行った。この検討の中では、児童にどのような「問い」をもたせるかが重要と考えた。そこで様々な問いについて分析し、表1のように整理した。その上で、追究の視点や方法を用いて教材分析を行い、児童が主体的になれるように発問や資料の検討を含めた指導計画を作成することとした。

表1 様々な問いの分類

- 疑問…児童の素朴な疑問
- 問い…疑問を追究の視点や方法をもとにまとめたもの
- 学習問題…単元を通して解決すべきもの
- 学習課題…1単位時間で解決すべきもの

次に、「追究の視点や方法を用いた授業づくり」の結果を基に、各分科会の課題を改善するための効果的な工夫について検討し、各学年の児童の成長段階に合わせた手段を用いて授業改善を行うこととした。

以上のような授業改善を行っていけば、児童は追究の視点や方法を用いて社会的事象の意味や特色を考えることができるようになると考え、本研究主題及び副主題を設定した。

地域社会の特色や相互の関連について考えさせるための指導の工夫

I 分科会研究主題設定の理由

本分科会で1学期に授業内容や児童の実態について分析を行った結果、教師による「つかむ」段階での資料や発問の吟味が十分でない、という課題が見いだされた。そのため、追究の視点や方法を用いた授業づくりが十分にできておらず、「つかむ」段階においてその後の学習活動に見通しをもてていなかったり、意欲的に調べ学習に取り組んでいても、その結果が地域社会の特色や相互の関連にうまく結びついていなかったり、という児童の姿につながっていることが分かった。

例えば今年度7月に、第4学年において実施した「江戸の文化を今に伝える浅草のまち」の実践を行った際、次のような課題が見られた。

「つかむ」段階において、多くの観光客でにぎわっている雷門や仲見世の写真から学習問題を見だし、「伝統文化」「お店」「交通」などに注目して調べ活動に取り組んだ。児童は意欲的に調査活動を行っていたが、「まとめる」段階では浅草の観光案内が中心になっていた。観光地としての浅草の様子は理解できたが、東京都の特色の一つとして捉えさせたかった、地域の伝統を保護・活用していく人々の努力に目を向けさせることができなかった。「つかむ」段階で写真資料や地図帳を中心に扱い、児童は「何がどこにあるのか」といった問いばかりになってしまい、「浅草のガイドマップを作る」という印象が強くなってしまったことが原因と分析している。授業づくりの際、「位置や空間的な広がり」の視点(以下「空間的な視点」)だけでなく、「時期や時間の経過の視点」(以下「時間的な視点」)や「事象や人々の相互関係の視点」(以下「関係的な視点」)も含んだ問いに集約されていくよう、「つかむ」段階で資料や発問を吟味しておく必要があった。

そこで本分科会では、つかむ段階の学習活動について改善を行うための研究に取り組むこととした。具体的には、以下の2点について研究を進めることとした。

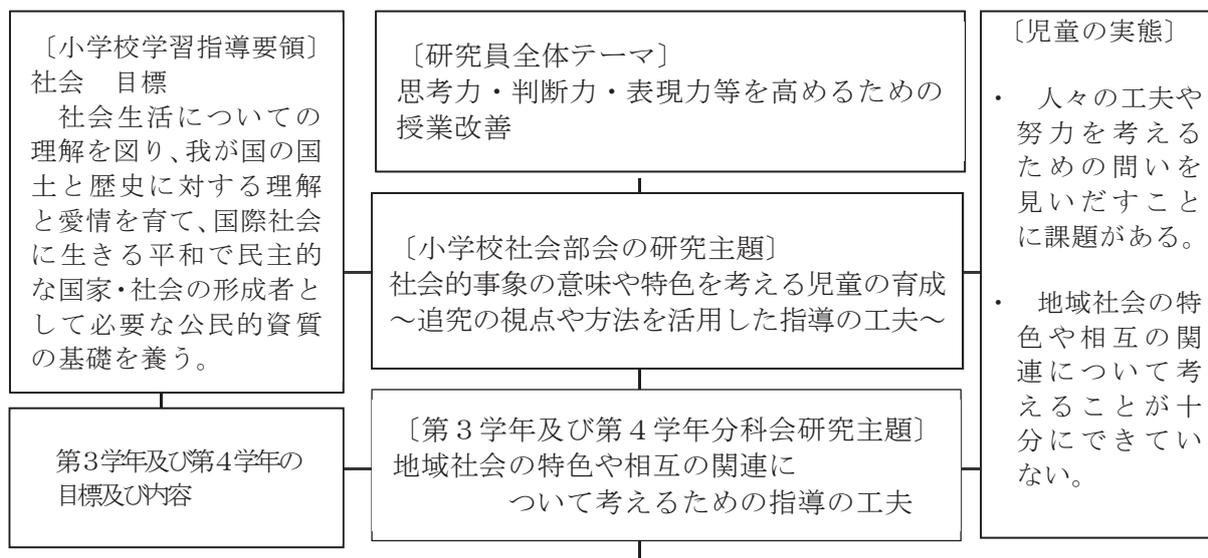
- ① 教師が追究の視点や方法をもって教材分析を行い、資料や発問を吟味する。そして、それらを基に、児童にもたせたい問いや学習問題を設定する。
- ② 児童から生まれる「どうなっているだろう。」「これはなぜなのだろう。」といった疑問や「～なのではないか」といった推論が、①で設定した問いや学習問題に自然と集約される資料提示や発問を行う。そして、問いや推論から学習問題の予想を立てさせ、それらを生かした学習計画をたてさせる。

これらの手だてを教師が実践していくことで、児童は単元の目標に向かった問いや学習問題に自然と近づけることができると考えた。また、自分が抱いた疑問や予想が自然な形で問いや学習問題に集約され、さらには学習計画の中に問いが学習課題として反映されていくことで、児童の学習意欲が持続していくと考える。以上のことから、分科会研究主題を「地域社会の特色や相互の関連について考えるための指導の工夫」とした。

II 研究の仮説

教師が追究の視点や方法を用いて教材分析を行い、つかむ段階の資料や発問を精選することで、社会的事象と児童を出合わせる際、疑問や推論をもたせたり、疑問や推論と問いをつなげやすくする学習過程を通して学習問題を設定したりできれば、児童は地域社会の特色や相互の関連について考えることができるようになるであろう。

III 研究構想図



〔育てたい児童像〕

- ・ 見通しをもって追究することのできる児童
- ・ 地域社会の特色や相互の関連について考えることができる児童

〔研究仮説〕

教師が追究の視点や方法を用いて教材分析を行い、つかむ段階の資料や発問を精選することで、社会的事象と児童を出合わせる際、疑問や推論をもたせたり、疑問や推論と問いをつなげやすくする学習過程を通して学習問題を設定したりできれば、児童は地域社会の特色や相互の関連について考えることができるようになるであろう。

【研究の内容・手だて】

- 1 追究の視点や方法を用いた授業づくりの工夫
 - (1) 学習指導要領の内容から「調べること」と「考えること」を読み取る。
 - (2) どのような追究の視点や方法を活用し、児童に追究活動を行わせるか検討する。
 - (3) 学習問題を設定させるための資料と発問の吟味を行う。
 - (4) 児童にもたせたい「問い」を設定する。
- 2 疑問を学習問題につなげる学習活動の工夫
 - ・ 「つかむ」段階に、児童の疑問や推論を集約し、問いをもつ時間を位置付ける。
 - ・ 問いを集約し、学習問題を見いださせることにつながる発問を行う。
 - ・ 問いを生かした学習計画をたてさせ、児童が学習の見通しをもてるようにする。

IV 研究の内容

1 追究の視点や方法を用いた授業づくり

【授業づくりの例】第3学年「販売」の学習

手順1 学習指導要領解説から「調べること」「考えること」を読み取り、追究の視点や方法を明らかにする。

手順2 明らかとなった追究の視点や方法をもとに、調べさせるための「発問」「資料」を吟味する。

〈「発問」・「資料」吟味の視点〉 ※太字は3・4年で活用が予想される視点の例

位置や空間的な広がり 〈発問の視点〉 地理的位置、分布、地形、環境、気候、範囲、地域、 構成、自然条件、社会的条件、 土地利用 等 〈発問の例〉 ・どのように広がっているのだろう。 ・なぜこの場所に集まっているのだろう。等	時期や時間の経過 〈発問の視点〉 時代、記録、 由来 、背景、変化、発展、 継承 、維持、向上、計画、持続可能性等 〈発問の例〉 ・いつどのような理由で始まったのだろう。 ・どのように変わってきたのだろう。等	事象や人々の相互関係 〈発問の視点〉 工夫、努力、願い、業績、働き、つながり、関わり、仕組み、協力、 連続、対策、事業、役割、影響、多様性と共生等 〈発問の例〉 ・どのような工夫・努力があるのだろうか。等
〈資料〉 ・日本地図 ・地域地図 ・俯瞰図等	〈資料〉 ・年表 ・同じ場所の時代の違う写真等	〈資料〉 ・事業にかかわる人々の話 ・働く人々の写真等

〈決定した「発問◇」・「資料☆」〉

① 空間的な視点…販売に関する店の地理的位置と分布に着目
 ☆地域の地図 ◇どこにお店があるのか。 ◇どこにお店は多いのか。

② 関係的な視点…販売に関する店と自分たちとのつながりに着目
 ☆買い物調べ ◇どこで、どんなものを買っているのか。

③ 関係的な視点…販売に関する仕事に携わる人々の工夫に着目
 ☆お店の俯瞰図と働く人の写真
 ◇お店の人はどのようなことをしているのか。
 ◇お店の人はどのような仕事をしているのか。

④ 空間的な視点…商品が送られてくる都道府県や外国の地理的位置
 ☆日本地図 ☆世界地図 ◇どこから商品は来ているのか。

つかむ段階
で追究する

調べる段階で追究する

手順3 手順1と2を基に、問いや学習問題を設定する。

- 商品には、どのような工夫があるのか。 …関係的に追究していく問い
- 施設には、どのような工夫があるのか。 …関係的に追究していく問い
- サービスには、どのような工夫があるのか…関係的に追究していく問い

※ 追究していく過程で見いださせる問い

- 商品は、どこから来ているのか。 …空間的に追究していく問い

○これらの問いから分かることを明らかにし、学習問題を設定する。

学習問題：スーパーマーケットでは、どのような工夫をしているのだろうか。

2 疑問を学習問題へつなげるための学習活動の工夫

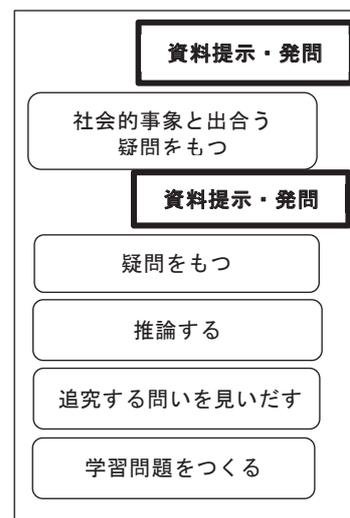
本分科会では児童の思考・判断・表現を高め、児童が地域社会の特色や相互の関連について考えるためには教師が問題解決的な学習の場を充実させることが大切であると考えた。そのためには児童が問い、学習問題、学習計画を確実に理解することが必要だと捉え、つかむ段階の学習活動の3点の工夫を行った。(図1参照)。

1点目は「つかむ」で児童の疑問・推論を集約して問いをもつ時間を位置付けることである。児童が社会的事象と出会う、疑問をもつ、推論をする、推論を分類する等の活動を通し、追究する問いを見いだすことで、一人一人の疑問や推論を大切にし、問いへの関心や意識を高めようとした。

2点目は問いの集約から、分かることを学習問題として設定するように発問することである。例えば「これらの問いから分かることは何か」と発問し、児童が学習問題を見いだすことで、問いと学習問題の関連を意識できるようにした。

3点目は学習問題を見いだした後、予想をもち、その予想を生かして学習計画をたてさせる際、問いを生かし、学習の見通しをもてるようにすることである。一人一人の疑問や推論を基につくられた問い学習計画を作成することで、問いを見通しをもって解決できるようにした。

図1 疑問を学習問題につなげる学習活動



問いをもって追究するための課題把握段階での実践事例（「ごみのしまつと再利用」）

資料：ごみ集積所の写真・ごみ収集車の写真・ごみ収集カレンダー			
疑問：なぜ種類ごとに集められているのか。		ごみはどこに運ばれるのか。	
捨てたごみは、どこに行き、どうなるのか。			
資料：集積されるごみの重さ 253 t 最終処分場で処理されるごみの重さ 0.4 t			
疑問：どうしてごみはこんなにも減るのだろうか。			
推論：燃やせるごみは灰にして小さくするのではないか。リサイクルしているのではないか。 燃やせないごみはつぶすのではないか。			
問い： 燃やせるごみはどのように処理されているのだろう。	問い： 燃やせないごみは、どのように処理されているのだろう。	問い： リサイクルされるものはどのようにリサイクルされるのだろう。	問い： 粗大ごみは、どこに行って、どのように処理されるのだろうか。
学習問題：わたしたちの出しているごみはどこに行ってどのように処理されているのだろうか。			

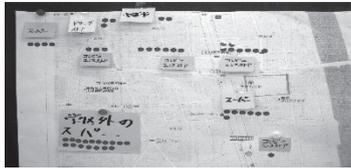
V 実践事例

(1) 小単元名 「まちの人々のしごと」

(2) 単元の目標

地域の販売について具体的に調べる活動を通して、販売に関する仕事により、自分たちの生活が支えられていることを知り、販売に携わる人々の工夫を考える。

(3) 指導計画 児童の反応 児童の思考 分析

	ねらい	○学習活動 ◇発問	資料	追究の視点
つかむ	1 学校の周りには様々な商店があることに気づき、単元の学習に関心をもつ。	○学校の周りにある商店を想起する。 ○学校に周りの商店を調べる。 ◇どこにお店がありますか。 ◇どこにお店は多くありますか。	*買い物した場所 *学区地図	見方 「位置や空間の広がり」 ・地理的位置 ・分布 考え方・比較
	2 自分たちは、様々な商店で買い物をしていることに気づき、スーパーマーケットを最も利用していることを知り、単元の学習への関心をもつ。	○買い物調べの結果から、自分たちが様々な商店で買い物をしていることに気付く。 ◇どこで、どんなものを買っていますか。 <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">  <ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな商店で買い物をしているね。 ・八百屋さんやスーパーで買い物をしている人が多いね。 ・少ないけどドラッグストアで買い物をしている人も多いよ。 </div> 結果から、スーパーマーケット、コンビニエンスストア、八百屋等の中で、どこを最も利用しているか考える。 ○インタビューを基に、消費者がスーパーマーケットを選択する理由を考える ○スーパーマーケットが生活を支えていることを想起する。	*買い物した場所 *学区地図	見方 「位置や空間の広がり」 ・地理的位置 ・分布 考え方・比較
		わたしたちの身の回りには多くの商店があります。その中で私たちが、最も買い物をしているのはスーパーマーケットです。スーパーマーケットは私たちの生活を支えています。		
	3 疑問や推論をもとに追究する問いを明らかにして学習問題を見だし、予想から学習計画を立てる。	○資料を手掛かりに推論する。 ○推論を分類し、追究する問いをつくる。 ○問いを総合し、分かることから学習問題を見いだす。 ○学習計画を作成する。	*保護者へのインタビュー *お店の俯瞰図 *お店の人の写真	見方「位置や空間の広がり」 ・土地利用・構成 見方「事象や時間の経過」 ・計画 見方「事象や人々の相互関係」 ・工夫・努力
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>〈発問〉 どうして、多くの消費者はスーパーマーケットで買い物をするのだろう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>資料1 〈スーパーマーケットを選ぶ理由についてのインタビュー〉からの推論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安いからスーパーを選ぶのではないか。 ・商品が色々あるからスーパーで買い物をするのだろう。 ・新鮮なものが多いから、スーパーマーケットで買い物をするのではないか。 ・駐車場があるからではないか。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>資料2 〈スーパーマーケットの俯瞰図〉からの推論</p> <ul style="list-style-type: none"> ・試食サービスがあるからだろう。 ・サービスカウンターがあるからではないかだろうか。 ・惣菜を作っている人がいるからだろう。 ・看板があつて、何が売っているかよく分かるからではないかな。 ・料理を作っている人がいるからではないかな。 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; float: right; width: 200px;"> <p>1・2時の学習内容を通し、知ったことをもとに、児童が必然的に思いつくと思われる疑問を問い返す形で発問する。また、見いださせたい問いに結び付く推論を出しやすいような資料を提示した。</p> </div>				

<p>○追究の視点や方法を活用しながら、推論を分類し、追究する問いを決める。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: flex-start;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;"> <p>誰もトイレがあるからではないだろうか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;"> <p>駐車場・駐はる車はないか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;"> <p>試食サービスがあるからではないか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;"> <p>サービスカウンターはないか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;"> <p>惣菜があるからではないか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 15%;"> <p>多様な商品があるからではないか。</p> </div> </div> <div style="margin-top: 10px;"> <p>推論を、追究の視点に応じて分類していく。本実践では児童と教師がともに分類した。</p> <p>問いから分かることを考えることで、消費者から働く人々に視点を無理なく変え、学習問題を見いださせた。</p> </div>			
<p>○問いから学習問題を見いだす。</p> <div style="border: 2px solid black; padding: 10px; text-align: center;"> <p>〈学習問題〉 スーパーマーケットで働く人々はどのような工夫をしているのだろうか。</p> </div>			
<p>○学習計画をたてる。</p>			
調べる	4 5 計画を基に、スーパーマーケットを見学し、問いに対する店の工夫を見付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ○スーパーマーケットへ行って、店の様子を見学したり、インタビューしたりする。 ○見学して分かった具体的事実をノートに箇条書きにしていく。 ◇商品・サービス・施設の工夫を見つけよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・店長へのインタビュー ・働く人々へのインタビュー ・お店の様子の見学 <p>「事象や人々の相互関係」 工夫・努力</p>
	6 見学して気付いたことをまとめ、スーパーマーケットの施設の工夫を理解する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>〈関係的な問い〉施設の工夫はどのようなものだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○施設について見学したことを分類する。 ○分類した工夫は誰が何をできるようにするか考える。 ○問いに対する考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べた時の写真 ・調べて気付いたことの短冊 <p>「事象や人々の相互関係」 工夫・努力</p>
	7 見学して気付いたことをまとめ、スーパーマーケットのサービスの工夫を理解する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>〈関係的な問い〉サービスの工夫はどのようなものだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○スーパーマーケットのサービスについて、見学したことをまとめる。 ○分類した工夫は誰が何をできるようにするか考える。 ○問いに対する考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べた時の写真 ・調べて気付いたことの短冊 <p>「事象や人々の相互関係」 「比較・分類・総合」</p>
	8 見学して気付いたことをまとめ、スーパーマーケットの商品の工夫を理解する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> <p>〈関係的な問い〉商品の工夫はどのようなものだろうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ○商品について見学したことを分類する。 ○分類した工夫は誰が何をできるようにするか考える。 ○問いに対する考えをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・調べた時の写真 ・調べて気付いたことの短冊 <p>「位置や空間の広がり」 「事象や人々の相互関係」 「比較・分類・総合」</p>
まとめる	9 学習問題に対する自分の考えをまとめ、スーパーマーケットで働く人々の工夫を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ○学習内容を想起し、学習問題に対する自分の考えをまとめる。 ○スーパーの店長のVTRを視聴し、自分の考えを見直す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の記録(ノート) ・(掲示物) ・(黒板記録) <p>「総合」</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>スーパーマーケットで働く人々はみんなの幸せを願って工夫をしている。それを知って、スーパーマーケットで働く人々が愛され、もうかり、幸せになってほしいと感じた。</p> </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>スーパーマーケットで働く人々はお客様の幸せと、みんなに愛される店にしたいと願って様々な工夫をしている。それを知って、私はその工夫をすることはいいことだと感じた。</p> </div>	

VI 研究の成果

1 追究の視点や方法を用いた授業づくり

追究の視点や方法を用いた授業づくりを行うことで、教師が事前に追究の視点や方法を用いて発問や資料の吟味を行うことができるようになり、「つかむ」段階で、児童が社会的事象の意味や特色を考えるための問いをこれまで以上に見いだせるようになった。

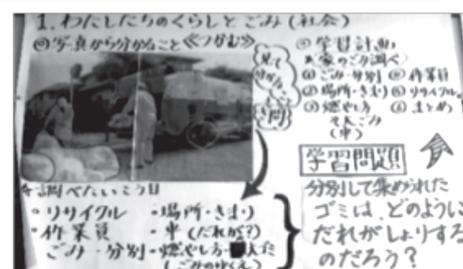
	昨年度までの児童が見いだした問い	今年度の児童の問い
江戸の文化を今に伝える浅草のまち	<ul style="list-style-type: none"> ・浅草にはどのような祭りがあるのだろうか。 ・浅草にはどのような古い建物があるのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浅草の人々はどのようにして、祭りを長い間行っているのだろうか。 ・浅草の人々はどのようにして、古い建物をのこしつづけているのだろうか。
自然をいかした人々の暮らし	<ul style="list-style-type: none"> ・八丈島の観光の工夫はどのようなものか。 ・八丈島の産業はどのようなものか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・八丈島は、島のどのような環境をいかした、産業をおこなっているのだろうか。

上記のように、追究の視点や方法を用いて発問や資料の吟味を行うことで、児童は地理的位置、分布、地形、由来、継承、工夫、努力、願い、業績、働き、つながり、関わり、仕組み、協力等の視点を持ち、社会的事象の意味や特色について考えることのできる問いを見いだせるようになった。

2 疑問を学習問題へつなげるための学習活動の工夫

	社会的事象に対する気付き →児童がもった疑問	○学習課題	●学習問題
A 児	<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんのごみまとめて捨ててある。→どこに行くのだろうか。 ・置くところが決めてある。→どのような決まりがあって集めるのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ごみはどこに行くのだろうか？ 見方「位置や空間の広がり」 ごみすての決まりはなぜある？ 見方「事象や人々の相互関係」 	分別して集められたゴミは、どのようにだれがしよりするのだろうか。
B 児	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ服を着た人が二人で作業している。→たくさんあるから？ →どのくらい時間がかかるのだろうか？ →どのくらいゴミが入るのだろうか？ 	<ul style="list-style-type: none"> ごみは処理の人々の工夫は？ 見方「事象や人々の相互関係」 	

個人の疑問や推論を追究の視点や方法を用いて分類・整理し、問いを見いだしたり、見いだした問いをもとに学習問題を見いだしたりすることで、一人一人の疑問を大切に学習計画を作成できるようになった。また、学習の見通しをもてるようになり、自分で資料を準備するなど意欲的に追究活動を行うようになった。その結果、地域社会の特色や相互の関連について、考えをもてるようになった。



VII 研究の課題

児童の問いや予想から学習計画をたて、思考を途切れない学習活動を展開することには見通しをもって児童に学習に取り組ませる上で有効であったと考えている。一方で、学習指導要領の指導内容を網羅するために必要な問いについては教師が提示せざるを得ないものもあった。追究活動を進める中で生まれる問いについて、さらに研究を進めたい。

**国土や産業の様子についての確かな理解を基に、
その意味について考えさせるための指導の工夫**

I 研究主題設定の理由

主題の設定にあたり、5年分科会において1学期の授業分析を行ったところ、調べる段階の1単位時間における児童のまとめの記述が、「稲作農家は田んぼの形を整え、大型機械で作業できるようにしたり、水の流れをよくしたりする工夫をしている」など、調べた事実の羅列で終わっていることが多く、それらの事実が「生産の効率を高めるために行われている」という、調べた事実の意図や目的まで考え、記述している児童が約70%にとどまっている、という実態があった。そして、単元終末で国土の環境と産業の様子における社会的事象の意味について考え、正しく捉えていると評価できる児童も同様の割合であった。また、平成27年7月に実施された「児童・生徒の学力向上を図る調査（東京都教育委員会）」の結果を分析したところ、意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決する力に関する項目の正答率が32.8%と、他の項目に比べて低いという実態が見られた。

これらの実態から5年分科会では、児童が単元終末で社会的事象の意味を正しく捉えられていないのは、調べる段階で、児童が調べた事実の意図や目的についてしっかりと考えられておらず、そのために1単位時間ごとの理解が不十分なものとなり、単元終末で比較・関連付け・総合することが難しくなっているのではないかと考えた。

そこで本分科会では、調べる段階の1単位時間ごとの理解を確実にするためには、小学校学習指導要領「社会」第5学年の「2内容」の各項目のア、イ、ウ…について、学習指導要領解説が示している「次のことをおさえる必要がある。」以降の具体的な内容を「確かな理解」と定義し、児童が確実に身に付けることが重要だと考えた。単元終末で児童に社会的事象の意味を考えさせるためには、調べる段階でこの「確かな理解」を積み重ね、社会的事象の意味を考える際の根拠にすることが大切であると考えた。

児童が「確かな理解」をするためには、1単位時間ごとに追究の視点や方法が明確になった課題を設定することが大切だと考えた。知識を追究の視点や方法で整理することで、児童に身に付けさせる知識が明確になる。その知識を基に、追究の視点や方法が明確になった学習課題を設定することで、児童は見通しをもって追究することができるようになるからである。そこで追究の視点や方法を用いた授業づくりの工夫を行っていくこととした。

また、児童が意図や目的まで含んだ「確かな理解」をするために、調べる段階の1単位時間に調べる活動と、調べた事実を基に考える活動を設定する。また、児童が事実を基に考えることのできる発問を工夫する。そうすることにより、調べた事実を基に、その事実の意図や目的を関連付けながら追究することができ、調べた事実とその意図や目的について「確かな理解」をすることができると考えた。

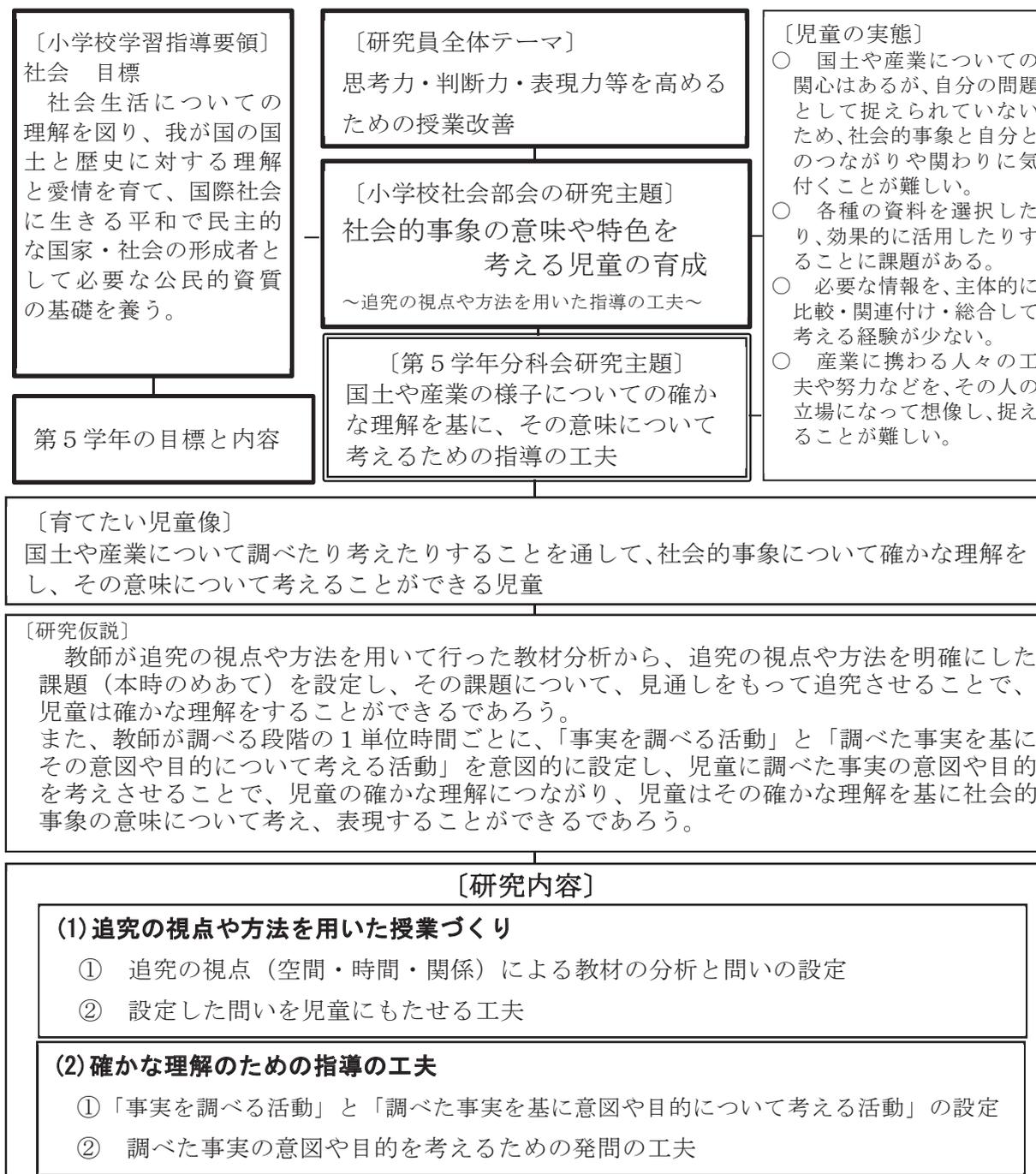
このようにして、「(1)追究の視点や方法を用いた授業づくり」「(2)確かな理解のための指導の工夫」をしていくことで育てたい児童像に迫ることができると考え、分科会研究主題を設定した。

II 研究の仮説

教師が追究の視点や方法を用いて行った教材分析から、追究の視点や方法を明確にした課題（本時のめあて）を設定し、その課題について、見通しをもって追究させることで、児童は確かな理解をすることができるであろう。

また、教師が調べる段階の1単位時間ごとに、「事実を調べる活動」と「調べた事実を基にその意図や目的について考える活動」を意図的に設定し、児童に調べた事実の意図や目的を考えさせることで、児童の確かな理解につながり、児童はその確かな理解を基に社会的事象の意味について考え、表現することができるであろう。

III 研究構想図



IV 研究の内容

1 追究の視点や方法を用いた授業づくり

(1) 追究の視点（空間・時間・関係）による教材の分析と問いの設定

児童が「確かな理解」を積み重ね、社会的事象の意味に迫るためには、追究の視点や方法を明確にすることによって、児童が何をどう調べればよいか明らかにし、見通しをもって調べることが必要と考えた。そこで本分科会では、追究の視点や方法を明確にして教材を分析し、ねらいに迫るための問いを設定した。その手順は以下の通りである。

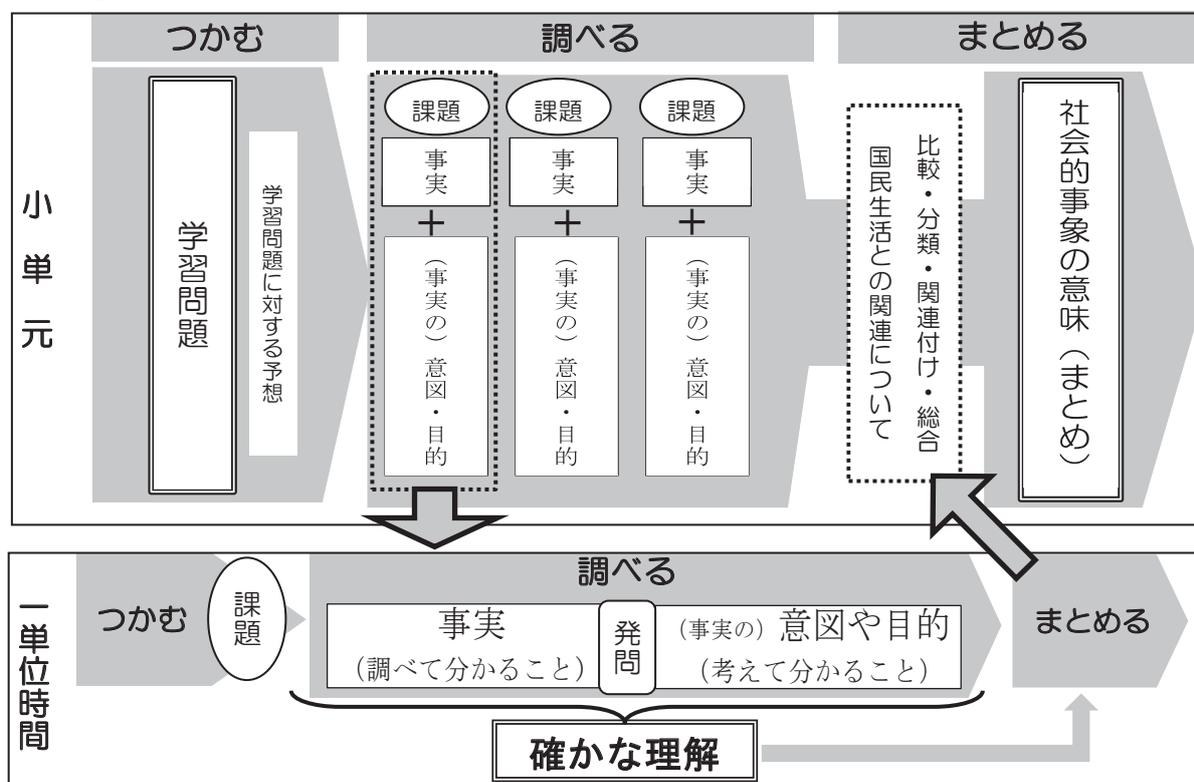
- i 学習指導要領の内容を基に、社会的事象の意味を見だし、学習問題を設定する。
- ii 児童に身に付けさせたい知識を整理する。
- iii 整理した知識を追究の視点や方法から分析する。
- iv 知識を獲得するための学習課題を設定し、追究する順序を整理する。

(2) 設定した課題を児童にもたせる工夫

調べる段階のつかむ場面において、教師が児童に社会的事象についての何に問題意識をもたせるかが大切だと考えた。ここでは新たに疑問をもたせるというよりも、学習計画に基づいて調べるべきことについて、資料や発問の工夫をすることで、児童が追究の視点や方法を明確にした課題をつかめるようにした。そうすることにより、児童の問題意識が焦点化され、見通しをもった追究活動となり確かな理解へとつながると考えた。

2 確かな理解のための指導の工夫

1 単位時間の調べる段階に「社会的事象の事実を調べる活動」と「その事実を基に意図や目的について考える活動」を設定した。また、児童に社会的事象の意図や目的を考えさせるための発問の工夫を行うことにより、社会的事象の事実の意図や目的を含んだ「確かな理解」ができると考えた。



V 実践事例①

この実践事例では、1 単位時間で用いた追究の視点と、調べたことを基に児童に考えさせるための発問を記録し、その結果目標を達成した児童の記述から、特徴的なものを抽出し、分析・考察した。

(1) 小単元名 「水産業のさかんな地域をたずねて」

(2) 小単元の目標

我が国の水産業の様子や国民生活との関連について調べ、産業に従事している人々の工夫や努力を理解するとともに、水産業の意味や発展について考えることを通して、水産業に関心をもつ。

(3) 実践記録

		抽出児童の記述	授業者による分析・考察	
つかむ	①日本の水産業について話し合い、学習問題を作る。	学習問題① 日本の水産物は、どこでどのように獲られ、わたしたちの元に届けられているのだろうか。		
<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 5px;">つかむ</div> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 50%; padding: 5px;">課題</div> </div>		事実 (調べて分かること)	意図・目的 (考えて分かること)	まとめる
	学習課題	調べて分かること	考えて分かること	
	【追究の視点や方法】	社会的事象の事実	発問	目的や意図(目標の達成)
調べる	②漁師の人々は、どのようにして魚をとっているのだろうか。 【関係的】 ・工夫 ・努力	・たくさんの魚の仕方がある ・魚によって獲る魚の種類が違う。 ・獲った魚は紫外線で殺菌した海水につけて港まで運んでいる。	「なぜ魚によって獲る方法が違うのか、またなぜ紫外線で殺菌した海水につけて運ぶのだろうか。」	漁師の人々は、魚の習性に合わせた方法で効率的にとり、鮮度を保つ工夫をして運んでいる。 (32人/35人中)
<A児>漁師の人々は魚による習性を利用して、光を利用するなど、魚に合った漁法で、よりたくさんの魚を獲れるように工夫をしている。		<考察>農業単元では米作りの工程についての記述が主だったが、水産業では、漁船における漁師の一つ一つの仕事の背景を考えさせる発問により、A児は魚によって漁法が違う理由を、B児は漁師の工夫が鮮度を保つため、という意図や目的について捉えることができています。		
<B児>漁師の人々は、魚を効率的にとるために、魚の習性を活用して、魚にあった方法で漁をしている。獲った魚は冷凍庫やいけすに入れて新鮮なまま運ばれている。				
	③魚が水揚げされた後、漁港では誰がどのような仕事を行っているのだろうか。 【関係的】 ・工夫 ・努力	・マグロー一本につき6秒で競り落とされる。 ・加工工場の日付や産地を記載して、殺菌した海水で箱詰めされている。	「短い時間で競り落とし、紫外線で殺菌した冷たい海水で箱詰めしたりするのはなんのためか。」	漁港で働く人々は、鮮度を保ち、消費者の安心、安全のために工夫している。 (31人/35人中)
<A児>せりをしている人は、新鮮度を保つために、マグロ1本6秒でせり落とし、仲卸の加工工場では、箱詰めや出荷して安全で新鮮なものを食べてもらうために工夫してどちらも鮮度を大切にしている。		<考察>「誰がどのような」という関係的な視点を用いて追究することにより、A児もB児も「誰がどのような」仕事をしていて、やっていることは違っていても、鮮度を保つことや、消費者の安心安全のため、という同じ意図や目的で行われているということを理解することができています。		
<B児>水揚げ後、短時間でせりが行われたり、働く人々が皆ルールを守ったりしながら、鮮度と消費者の安心安全を大切にしている仕事が行われている。				

<p>④さんまは誰がどのようにして私たちのものに届けているのだろうか。</p> <p>【関係的】 ・工夫 ・努力</p> <p>＜A児＞さんまは運送会社の人が、鮮度を保つために保冷トラックを使い、気候や条件に合わせた方法で運んでいる。</p> <p>＜B児＞運送会社の人は鮮度と時間に気を付けて私たちのものに届けている。漁師や港で働く人と同じように鮮度に気を付けて運んでいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保冷トラックのままフェリーで運ばれる。 ・飛行機を使うこともある ・輸送手段によって、かかる費用が違う。 	<p>「様々な輸送手段があるが、輸送する人は、どうやって輸送手段を選んでいるのだろうか。」</p>	<p>時間や費用など、それぞれ輸送手段の利点を生かした方法で、新鮮さを保ちながら運んでいる。(31人/35人中)</p>
<p>⑤日本の水産業はどんな問題を抱えているのだろうか。</p> <p>【時間的】 ・変化 ・背景</p> <p>＜A児＞日本の水産業は農業と同じように、働く人の高齢化、輸入量の増加、消費量の減少などの問題を抱えている。</p> <p>＜B児＞日本の水産業は、自然環境の変化や漁場制限や外国との資源争いなどによる漁獲高の減少などの問題があり、食べられる魚が減るかもしれない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・水産物の生産量、消費量の減少 ・漁場の制限 ・外国との資源争い ・漁業従事者の減少、高齢化 	<p>「このままでは、日本の水産業はどうなるのでしょうか。」</p>	<p>このままでは我が国の食生活の中で、食べられなくなる魚が出てくるかもしれない。(31人/35人中)</p>
<p>⑥産業が抱える問題の解決のために、どのような取組がされているのだろうか。</p> <p>【関係的】 ・工夫・努力・対策</p> <p>＜A児＞水産業の抱えている問題を解決するために、自然環境を守りながら、作り育てる漁業を進める必要がある。そうして、水産資源を守るための取組が行われている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境を利用した環境に配慮した養殖業が行われている。 ・水産資源を守るための栽培漁業の取組が行われている。 	<p>「養殖業や栽培漁業に携わる人々が大切に行っていることは何か。」</p>	<p>自然環境を活かした、質の良い、安全安心な魚を安定して育てることで、水産資源の減少を少しでも防ぎたい。(31人/35人中)</p>
<p>まとめ ⑦学習問題に対する自分の考えをまとめよう。</p> <p>【比較・分類・関連付け・総合】</p>	<p>日本の水産物は、日本の各地の豊かな漁場で、漁師によって工夫してとられており、漁師、港で働く人、魚を輸送する人はそれぞれが「鮮度を保つ工夫」をすることによって、私たちの元に新鮮な魚を届けている。更に、日本の水産業は様々な問題を抱えており、解決のためには様々な取組をさらに進めることが大切だ。</p>		
<p>⑧わたしたちがこれからも水産物を食べ続けるために必要なことは何か。</p> <p>【時間的】 ・発展・持続可能性</p> <p>＜A児＞私たちがこれから魚を食べ続けるためには、魚が住む環境を大切にしながら作り育てること、資源保護、きまりを守り、世界で協力合うことが大切だ。</p> <p>＜B児＞私たちが魚を食べ続けるために必要なことは、海の資源や環境を守ることと、外国とのルールを決め、私たちにできること（自然を守る、海にごみを捨てない、）など協力することが必要だ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資源を守り、生産量を高めていく。 ・養殖技術をさらに高める必要がある。 ・自然環境を守る取組が行われている。 	<p>「これらの取組は日本だけが行っていればよいのだろうか。」</p>	<p>各国と協力して水産資源確保の取組を続けていく必要がある。(32人/35人中)</p>
<p>＜考察＞A児B児共に、時間的な視点で考えることにより、これからの水産業について、より具体的に自分事として考えることができた。また、産業の発展という観点から、「日本だけが・・・」と世界的な資源確保の必要性に目を向けさせたことにより、他国との協力が不可欠であることを捉えさせることができた。</p>			

VI 実践事例②

実践事例②では、これまでの追究の視点や方法を用いていない実践【実践1】と研究主題に基づいた理論を用いた実践【実践2】を、教師と児童それぞれの視点ごとに比較することで変容を分析し、考察することで成果と課題を見出した。

【実践1】 小単元名「米づくりのさかんな地域」

学習問題

米づくりのさかんな地域では、人々がどのような工夫や努力をして、米を生産しているのだろう。

		学習課題	・児童の記述（まとめ）	記述に対する分析
		学習課題に対する分析	獲得させたい知識	
調べる	第二時	米づくりがさかんな南魚沼市にはどのような特徴があるのだろうか。	<p>【獲得させたい知識】南魚沼市は、山にはさまれた盆地で川も流れている。また、夏は昼夜の気温差が大きく、冬は季節風により雪が多く降る（事実）<u>この自然条件を生かして米づくりを行っている。</u>（目的）</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊かな自然を生かして米づくりをしている。 →調べた事実を根拠とする記述がない。 新潟は新田と名のつく地名が多い。雪が多いなどの独特な特徴がある。 →資料から読み取ったことの一部しか考えに生かされていない。 日本一になるにはたくさんの米づくりに合っていることが備わっている。そして機械などを使って働いているから日本一になった。 →提示した資料から読み取れていない、追究の視点からずれたまとめ。 南魚沼市は、米づくりに必要な、水、土地などの条件がそろっているので、米の生産量が日本一である。 →事実の概要はとらえているが具体例の記述がない。 	<p>教師の発問が具体的でないため、児童は何について調べればよいか、という見通しをもちにくい。</p>
<p><考察></p> <p>何について調べればよいかという追究の視点が明確になっていないため、児童のまとめの記述が、各々の書き方ではらつきがある。また、具体的な自然条件（事実）とそれを生かした米づくりを行っている（意図や目的）ことの両者を結び付けて捉えられていない。また、教師が事実を基に考える活動を明確に取り入れられていないため、児童の獲得した知識が、事実を基に考え、それらを結び付けて社会的事象の事実の意図や目的を含んだ「確かな理解」とはなっていない。</p>				
まとめる	第九時	日本の米づくりについて新聞にまとめよう。	<p><まとめの新聞による児童の記述></p> <ul style="list-style-type: none"> 米ばなれはあるものの日本は米づくりがさかんである。 TPPに負けない安くおいしいお米を海外に輸出する。最先端技術を活用したローコスト稲作プロジェクトが始まっている。 正直農業に興味はなかったし、米も普通に手に入るものだと思っていたので、農家の人が汗を流して作っていることを知り驚いた。 ふだん何気なく食べているお米だけど、農家の人が一生懸命作っていることが分かった。だから私は、お米一粒一粒を大切にしたいと思った。 生産量が消費量とともに減っているだけでなく、働く人の減少や高齢化の問題もあるから、若い人もやろう。がんばれ米づくり。 米づくりは奥が深く、人々の協力が大切であることが分かった。 	<p>新聞にまとめるとい活動についての指示を出しており、何についてまとめるのか明確になっていない。</p>
<p><考察></p> <p>まとめる段階では、日本の農業に携わる人々の工夫や努力について理解し、米づくりがわたしたちの食生活を支えていることを考えさせる場面である。しかし、日本の農業に携わる人々の工夫や努力についての記述は見られるが、これまで調べてきた社会的事象の事実を比較・関連付け・総合しながら、社会的事象の意味を考えている児童が少なく、調べた具体的な事実がなく感想のみの児童もいた。これまでの調べる活動が、考える場面に授業展開の中に明確に組み込めていないことと、児童に意図や目的を考えさせる発問の工夫が足りないこと、が原因であると考えられる。</p>				

【実践2】 小単元名「広がる情報ネットワーク」

① 追究の視点や方法を用いて本時の学習課題を明確にした。

② 社会的事象についての事実を「調べる活動」とその意図や目的を「考える活動」を意図的に設定した。

※【時間的】→「時期や時間的の経過の視点」による本時の学習課題。

		学習課題と追究の視点 教師の分析	・児童の記述（まとめ） 獲得させたい知識 事実 意図や目的
調べる	第三時	<p>30年間で図書館の利用の仕方は、どのよう<u>に変わったの</u>だろうか。</p> <p>【時間的】 変化、向上</p> <p>教師が時間的な視点を問いを設定し、児童に<u>変化</u>について考えさせた。</p>	<p>【獲得させたい知識】 図書館を利用する人は、情報ネットワークの働きにより、自宅からでも借りたい本の検索や予約、本や資料のリクエストができるだけでなく、休館日や本の情報なども得ることができ、<u>便利になった。</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館は利用者を使いやすいようにインターネットで本の予約や延長ができるようになった。 ・図書館は自動貸出機を使い30年前よりも利用者<u>が借りやすい環境になった。</u> ・図書館は、情報ネットワークを取り入れ、機械を使うことで簡単に本の検索ができるなど利用者<u>が利用しやすくなった。</u> ・図書館は情報ネットワークでつながることで、<u>図書館に行かなくても本の予約をしたり、図書館の情報を知ることができたりする</u>など利用者にとって<u>便利になった。</u> ・30年間で図書館は情報ネットワークを使うようになったため、<u>短時間で多くの人</u>が色々な本を借りられるようになったり、<u>楽に本の検索</u>ができるようになったりした。
<p><考察> 調べる段階で「事実について調べる活動」と「調べたことを基に考える活動」を意図的に1時間の授業展開の中に設定することで、情報ネットワークの働きによる変化（事実）、公共サービスの向上が実現していること（意図・目的）について考えられており、確かな理解をしている。</p>			
まとめる	第七時	<p>私たちの生活は、<u>情報ネットワークの働き</u>により、<u>どのよう</u>に<u>変化</u>したのかまとめよう。</p> <p>社会的事象の意味を考えさせるために、情報ネットワークの働きと国民生活との関連について考えられるような学習課題を設定した。</p>	<p><ノートの記述></p> <ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちの生活は、情報ネットワークの働きにより、<u>救急患者の命を助けられたり、災害時の防災にも役立てられたり</u>するなど<u>便利で安全になった。</u> ・わたしたちの生活は、情報ネットワークの働きにより、<u>図書館のように普段の生活をよりよく過ごせるようになったり、防災ネットワークを生かし、安心して過ごせたり</u>できるようになった。 ・わたしたちの生活は、情報ネットワークの働きにより、<u>患者さんの命を守れたり、災害が起こったときなどより早く正確な情報を受け取れたり</u>できるようになるなど<u>安全性が高まった。</u> <p>【社会的事象の意味】 わたしたちの生活は、情報ネットワークの働きにより、<u>素早く確実な情報を得ることができるようになり、便利で安全なものになった。</u></p>
<p><考察> 調べる段階で<u>確かな知識を積み重ねたこと</u>により、まとめる段階では、医療や防災などでも情報ネットワークが生かされているという、<u>社会的事象の事実を関連付けて考察し</u>、情報ネットワークの働きによって、わたしたちの生活が向上しているという、<u>社会的事象の意味</u>を考えることができている。</p>			

VII 研究の成果

(1) 追究の視点や方法を用いた授業づくり

① 追究の視点や方法を用いた教材分析と、問いの設定

教師が追究の視点や方法を明確にした教材分析を行い、学習問題や各時間の問いを設定することで、児童は何を調べ、考えたらよいか見通しをもって調べることができた。

② 設定した問いを児童にもたせる工夫

各時間の問いを児童にもたせるための資料を準備したり、思考の方向付けとなる発問を工夫したりすることで、児童の確かな理解につながった。

＜児童の変容＞（実践記録1と同様の学級）

上記①について、児童のノートを分析したところ、1学期には教師の意図したことを調べることが難しかったこともある児童が、追究の視点や方法を明確にした教材分析と問いの設定により、記述する内容が大きく外れることがほとんどなくなっていた。この結果から児童は何を調べ、考えればよいかを分かった上で見通しをもって調べる活動に取り組めるようになった。

	米作りが盛んな地域	水産業の盛んな地域
C児	おいしいお米を作るためには雑草をとったり、農薬をまいたりして大変なんだと思った。	漁師の人々は漁法を魚の習性に合ったものを選び、効率的に獲って <u>新鮮なまま運んでいる。</u>
D児	お米作りは一年を通じての作業や工夫、努力をして出荷されている。	漁師の人々は魚の習性を利用して効率的に漁をしたり、港に運ぶまでに殺菌した海水につけたりして、 <u>鮮度を保つ工夫</u> をしている。

(2) 確かな理解のための指導の工夫

調べる段階において、1単位時間ごとの学習の展開を、「事実について調べる」活動と「調べたことを基に考える」活動を意図的に位置付けることで、社会的事象の事実とその意図や目的を含んだより確かな理解をすることができた。

調べる段階で身に付けた確かな理解を基にすることで、国土の環境や我が国の産業における社会的事象の意味について考え、表現することができる児童が増えた。

＜児童の変容＞（実践記録2と同様の学級）

6月「米づくりのさかんな地域」単元終末の児童の記述を分析したところ、「米づくりがわたしたちの食生活を支えている」という社会的事象の意味を考えられていた児童は23人中2人であった。

しかし、研究が進んだ11月「広がる情報ネットワーク」の単元終末の児童の記述では、情報ネットワークの働きが、わたしたちの生活を向上させているという社会的事象の意味を考えられる児童が増えた。

VIII 研究の課題

- 追究の視点や方法を明確にした教材分析をすることで、学習問題や各時間の問いを設定することができた。今後も追究の視点や方法を、実際の授業における具体的なレベルにまで落とし込んでいくとともに、より多くの単元で明確にしていく。
- 調べる段階については、各時間の追究の視点や方法を明確にした本時の問い（めあて）を設定することで、充実して研究を行うことができた。今後は5年生でも研究対象をまとめる場面に広げ、それまでに身に付けてきた確かな理解を基に、比較・分類・関連付け・総合して考察することによって意味を考える場面についても研究していきたい。

社会との関わりについて考えさせるための指導の工夫

I 研究主題設定の理由

第6学年社会科では、全体研究主題を受け、「社会的事象の意味や特色を考える」児童を育成するために、児童が意欲的に調べ、考え、表現しながら学習を進め、その中で自分と社会の関わりについて考えさせることが、社会的事象の意味や特色を考えさせることにつながると考えた。そのためどのようなことが必要か、本分科会において第6学年児童の実態を調査し、結果を分析した。その結果、以下3点の注目すべき実態が見いだされた。

- 1 知識理解の定着は見られるが、課題に対して主体的に考えることができていない。
- 2 学習内容を自分事として捉えたり社会生活に活用しようと考えたりする意識が低い。
- 3 社会への参画意識が希薄な児童が多い。

この実態の理由として、これまでの各研究員の授業が原因の一つとして考えられる。例えば、社会的事象について調べまとめ、確かな社会認識を目指して行われてきた。しかし、自分と社会との関わりについて考察することは、教材の設定や資料精選などに課題があり、十分であったとは言えなかったと考えられる。

一方、「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」には、今後目指すべき児童像として、「社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を養うこと」や「社会にみられる課題を把握して、社会の発展を考えられること」が挙げられている。本分科会ではこれらのことに加え、第6学年の発達段階や学習内容も踏まえながら、自分と社会との関わりを主体的に考えていく力を育成する必要があると考えた。そこで、歴史学習、政治学習、国際理解学習を通して、児童に社会との関わりについて考えさせていくことを研究の中心におくこととした。

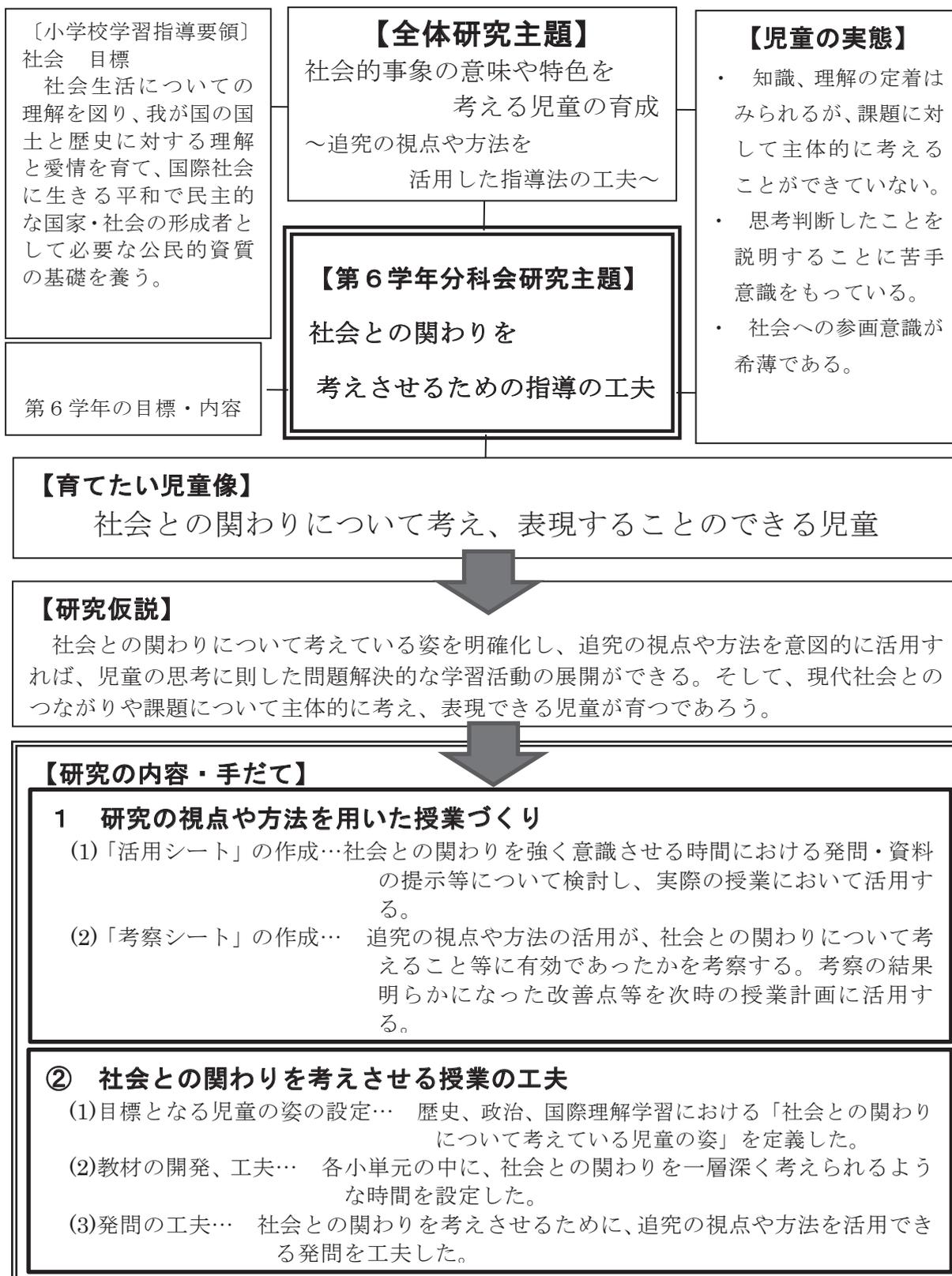
歴史学習においては、小单元ごとに積み重ねた「社会との関わりについての考え」を、歴史学習の終末で関連付け・総合させる。そうすることで、社会的事象の意味や特色をつなげさせ、歴史学習を通じた社会との関わりについて児童に考えさせることができると考えた。

政治单元、国際理解单元においては、1単位時間ごとに「社会との関わり」を考えさせられるよう、指導計画を作成する。1単位時間ごとの児童の思考を小单元の「まとめる」段階において関連付け・総合させることで、社会的事象の意味や特色を考える児童が育成できると考えている。以上のことから、本分科会では研究主題を設定した。

II 研究の仮説

社会との関わりについて考えている姿を明確化し、追究の視点や方法を意図的に活用すれば、児童の思考に則した問題解決的な学習活動の展開ができる。そして現代社会とのつながりや課題について主体的に考え、表現できる児童が育つであろう。

Ⅲ 研究構想図



IV 研究の内容

1 追究の視点や方法を用いた授業づくり

児童が追究の視点や方法を用いて社会的事象を確かに捉え、社会との関わりを考えられるようにすることができると考えた。

また、本分科会では「社会との関わり」を強く意識させたい時間を設定した。その理由は、全ての学習において「社会との関わり」を考えた授業展開は適切ではないと考えたからである。その具体的取り組みとして、二つの手だてを講じた。

(1) 「追究の視点や方法 活用シート」の作成

本研究では、どの小単元でも予め「追究の視点や方法」を明確にして学習を行うこととしていく。児童の思考に即した問題解決的な学習活動の展開ができるよう、『活用シート』を作成した。シートには、「学習課題」、「追究の視点や方法を活用させる発問」、「追究の視点や方法」、「扱う資料」、単元終了時に目指す児童の「ゴールの姿」を示した。

『追究の視点や方法 活用シート』 例：明治時代「新しい時代の幕開け」 授業実践より

※このシートは、歴史単元（時代毎）、政治単元、国際理解単元の全てで作成する。

【 追究の視点や方法 活用シート：明治時代『新しい時代の幕開け』編 】

※歴史学習では、視点②【時期や時間の経過】の視点は常に用いるものとする。

時間	学習課題	追究の視点や方法を活用させる発問	追究の視点や方法	資料
1	写真や絵画を比べて、江戸から明治へどのように変わったのか話し合おう。	①資料を比べて、どのようなことがわかりますか。	方【比較・分類】	・江戸末期日本橋の絵画 ・明治初期の日本橋の絵画
2	黒船の来航が来航したことで、どのような影響があったのだろう。	②ペリーの来航によって、どのような影響があったのでしょうか。	視【相互関係】 方【関連付け】	・日米和親条約 ・日米修好通商条約 ・五箇条の御誓文
学習問題：開国したのちの日本を、だれがどのように変えていったのだろう。				
3	開国したことに対する人々の思いはどのようなものだったのだろう。	③どのような時に一揆や打ちこわしが多く起きているのでしょうか。	視【関連付け】	・百姓一揆と打ちこわしのグラフ ・打ちこわしの様子絵
4	明治政府はどのような国づくりを目指していたのだろう。	④国を豊かにするために、政府はどんなことをしたのでしょうか。	視【相互関係】 方【総合】	・明治政府の政策（廢藩置縣・富国強兵）
5	明治維新を進めた人々は、どのような思いをもっていたのだろう。	⑤これらの政策を、政府はどのような思いで決めたのでしょうか。また、国民はどう思ったでしょう。	視【相互関係】 方【関連付け】	・明治政府の緒政策（殖産興業・地租改正・徴兵令）
6	文明開化によって、人々の生活はどのように変わったのだろう。 <small>本時</small>	⑥政府はなぜ、郵便制度をつかったのでしょうか。	視【相互関係】 方【関連付け】	・暮らしの変化年表 ・郵便制度の変化 ・前島密の思い
7	政府に不満をもつ人々は、どのような行動をとったのだろう。	⑦なぜ、自由民権運動が広がっていったのでしょうか。	視【空間の広がり】	・自由民権運動の広がり図
8	憲法は、どのようにつくられていったのだろう。	⑧伊藤博文はどのような思いで日本国憲法をつかったのでしょうか。	視【空間の広がり】 方【関連付け】	・19世紀頃の欧米植民地勢力図 ・大日本帝国憲法
9	学習問題について調べてきたことを整理し、自分の考えを書こう。	⑨これまでの学習から、学習問題に対する、自分の考えを書きましょう。	視【相互関係】 方【総合】 方【関連付け】	・これまでの学習で使用した資料等
児童のゴールの姿		明治政府は、外国の文化や考え方を取り入れて、様々な改革をおこないました。それらの中には、現在にも続くものも数多くあります。様々な立場の人々の、強い思いや願いのもと、日本は外国にも負けない国づくりを進めていきました。		

社会とのかかわりを考えている児童の姿

- 1、過去のできごとを現在及び将来の発展に生かそうとする児童
- 2、自分たちの生活は、長い間の我が国の歴史や先人たちの働きの上に成り立っていることを考える児童

(2) 「追究の視点や方法 考察シート」の作成

追究の視点や方法活用シートにおける計画が、妥当なものであったかを検証するために、『追及の視点や方法 考察シート』を作成した。考察シートは、「追究の視点や方法」、「中心となる学習活動・主な児童の反応」、「追究の視点や方法の有用性」、「児童のゴールの姿」の四つの項目から構成されている。このシートで児童を見とり、毎時間の授業を考察することで、活用シートの内容の見直しを図った。

『**追究の視点や方法 考察シート**』例：「武士の世の中へ」（1 単位時間目／全 5 時間）

ねらい：武士の生活や武士と貴族の違い、思いや願いに関心をもちその生活を予想し、学習問題を考える。

追究の視点や方法	中心となる学習活動・児童の反応	考察（追究の視点や方法の有用性について）
<p>〔活動・資料・発問一覽〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武士のやかたの様子（想像図） ・都の貴族のやしきの様子（想像図） <p>追究の視点や方法一 〔時期や時間の経過〕</p> <p>追究の視点や方法 〔比較・分類〔関連〕〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観点①：貴族と比べて ・観点②：人々の様子 ・観点③：建物の様子 ・観点④：その他 <p>意図</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味を喚起させる。 ・変化をとらえさせる。 ・問題を発見させる。 	<p>（活動）武士の館の想像図から気が付いたことを書き交流した後武士の生活を予想す</p> <p>（児童の反応）資料から予想した武士の生活</p> <p>A児：観点①についての記述… 8 個 観点②についての記述… 4 個 観点③についての記述… 4 個</p> <p>予想「貴族よりも質素で、自分の領地を守るために、戦いに備えている生活。」</p> <p>B児： 観点①についての記述… 3 個 観点②についての記述… 3 個 観点③についての記述… 2 個</p> <p>予想「武士の暮らしは貧しが、日々戦の準備は欠かさず、戦をよくおこなっていた生活。」</p>	<p>A児は、前時代の貴族の暮らしと比較して多くの記述がみられた。 物見やぐら、田畑など、特に土地活用の仕方の比較から「戦いに備えている。」「自給自足→質素で武芸中心ではないか。」など武士の生活について具体的に予想を立てることができている。 B児は、各観点を関連させて考えている記述が多くみられた。 具体的には「牛車を使わない。」「人々の服装が派手ではない。」「人口が少ない。」「田畑が多く、山の中にある。」「働いている人が多い。」→「これらのことから、貴族よりも貧しい暮らしだろう。」といった記述である。</p>
児童のゴールの姿	源頼朝、義経たちの働きによって、武士による政治が始まった。頼朝は「御恩と奉公」という主従関係によって武士を統一した。	
ゴールの姿到達人数	28 人 / 30 人	

2 社会との関わりを考えさせる授業の工夫

(1) 社会との関わりについて考えている児童の姿の設定

本研究では、「社会との関わり」を考えている児童の姿を、学習指導要領に示されている第 6 学年の目標と内容をもとに、各学習において具体的に定義した。

社会との関わりについて考えている児童の姿

<p>【歴史学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①過去のできごとを現在及び将来の発展に生かそうとする児童 ②自分たちの生活は、長い間の我が国の歴史や先人たちの働きの上に成り立っていることを考える児童 <p>【政治学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①政治は国民生活の安定と向上を図るために大切な働きをしていることを考える児童 ②我が国の民主政治は日本国憲法の基本理念の考え方と深くかかわっていることを考える児童 <p>【国際理解学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ①外国の人々の文化や習慣の違いに触れ、その違いを理解し尊重することの大切さを考える児童 ②平和な国際社会の実現のために我が国が果たしている役割を考える児童
--

(2) 教材の開発、工夫

社会との関わりを意識させたい時間を意図的に設定するために、新たに教材を開発したり、教材との出会わせ方を工夫したりした。

(3) 発問の工夫

社会との関わりを考えさせたい場面において「なぜ」「どうして」等の発問を設定した。これまでの学習を総合したり関連付けたりして、ねらいに迫れるであろうと考えた。

V 実践事例

- (1) 小単元名「新しい日本、平和な日本へ」
- (2) 追究の視点や方法 活用シート

【 追究の視点や方法 活用シート : 昭和時代『新しい日本、平和な日本へ』編 】

※歴史学習では、視点②【時期や時間の経過】の視点は常に用いるものとする。

時間	学習課題	追究の視点や方法を活用させる発問	追究の視点や方法	資料
1	終戦直後の日本は、どのような様子だったのだろう。	① 戦後直後の日本は、 <u>どのような様子</u> だったでしょう。	視【相互関係】 方【比較・分類】	- 自作戦後年表 - 焼け跡の街での生活
学習問題：戦争が終わってからどのようなことがあり、日本はどのように変わっていくのだろう。				
2	日本は復興のため、国内でどのような改革を行い、どのような国づくりを目指したのだろう。	② 日本は復興のために、 <u>どのような改革</u> を行い、 <u>どのような国</u> を目指したでしょう。	視【相互関係】 方【関連付け】	- 自作戦後年表 - 女性の投票 - 憲法公布記念祝賀の様子
3	日本はどのようにして国際社会に復帰し、産業を復興させていったのか。	③ 日本は <u>どのようにして国際社会</u> に復帰し、 <u>産業を復興</u> させていったでしょう。	視【相互関係】 方【関連付け】	- 自作戦後年表 - サンフランシスコ平和条約 - 電化製品の普及
4	1964年の東京オリンピックを経て、日本はどのように変わっていったのだろう。	④ 1964年の東京オリンピックを <u>経て</u> 、日本は <u>どのように変わって</u> いったでしょう。	視【空間の広がり】 視【相互関係】 方【総合】	- 自作戦後年表 - 東京オリンピックに関連する映像資料 - 東海道新幹線
5	日本には、どのような問題を抱えているのだろうか。	⑤ 現在の日本は、 <u>どのような問題</u> をかかえているでしょう。	視【空間の広がり】 方【総合】	- 自作戦後年表 - 世界地図、日本地図 - 東日本大震災の様子
6 本時	2020年東京オリンピック・パラリンピックを経て、日本はどのように変わっていくのだろう。	⑥ 2020年東京オリンピック・パラリンピックを経て、日本は <u>どのように変わって</u> いでしょう。	視【時期や時間の経過】 方【総合】 方【関連付け】 かかわり方 ⇒1	- 自作戦後年表 - 2020年東京オリンピック・パラリンピックの基本構想
7	今日学習問題に対する考えを書こう。	⑦ <u>どのように変わって</u> いでしょう。	視【相互関係】 方【関連付け】 かかわり方 ⇒1、2	- 自作戦後年表
8	日本の歴史をふりかえろう。	⑧ 歴史学習を通して、 <u>どのようなこと</u> を考えましたか。	視【相互関係】 方【総合】 方【関連付け】	- 自作戦後年表
児童の ゴールの姿		戦後の日本は、日本国憲法の制定などの戦後の改革をおこなって、平和で民主的な国家として出発しました。その後も、国民の努力によって国民の生活は向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきました。 そして、 <u>2020年の東京オリンピック・パラリンピック</u> をきっかけとして、「 <u>よりよい世界を目指していこう</u> 」と、世界へ向け私たち日本人が発信していきたいな。		

社会とのかかわりを考えている
児童の姿

- 1、過去のできごとを現在及び将来の発展に生かそうとする児童
- 2、自分たちの生活は、長い間の我が国の歴史や先人たちの働きの上に成り立っていることを考える児童

(3) 小単元の目標

戦後、我が国が民主的な国家として出発し、国民の不断の努力によって国民生活が向上して国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことや、平和で民主的な国家の一員として世界の人々と共に生きていくことの大切さについて考える。

(4) 学習指導計画（全8時間）

	◆ねらい	○学習活動・児童の反応 学習課題 <input type="text"/> まとめ <input type="text"/>	□留意点 ●資料 ☆評価
つかむ	①戦後から現代までの日本の歩みについて学習問題を見だし、予想を基に学習計画を立てる。	<p>終戦直後の日本はどのような様子だったのだろうか。</p> <p>○絵から終戦直後の日本の様子読み取る。 ・青空教室が日本各地で行われていた。 ・闇市では、日用品や食料を販売していた。 ・アメリカ軍が日本を占領していた。 ・買い出し列車というものがあつた。 ○アメリカの指示によってさまざまな民主改革が行われたことについて考える。 「アメリカ軍に占領されてから行われた改革により、日本は大きく変わっていった。」</p>	<p>●絵：焼けあとの街での生活 ●年表 □終戦を迎えたからといって、すぐに平和にならなかったのではなく、戦争直後は、苦しい生活をしてきたことを押さえるようにする。</p> <p>☆思・判・表①</p>
<p>学習問題：戦争が終わってからどのようなことがあり、日本はどのように変わっていくのか。</p>			
調べる	②戦後改革や日本国憲法の制定について、必要な情報を資料から読み取っている。	<p>日本は復興のため、国内でどのような改革を行い、どのような国づくりを目指したのか。</p> <p>・民主主義の国として再出発するために、戦後改革が行われた。 ・女性に選挙権が保障された。 ・日本の進む方向として平民主義的で平和主義的な日本国憲法が制定された。 ○調べたことを基にどのような国づくりを目指したか話し合う。 「日本は、日本国憲法や戦後改革によって、平和で民主的な国づくりを目指した。」</p>	<p>●年表 ●写真：女性の投票 ●写真：憲法公布記念祝賀会</p> <p>□戦争中の生活と比べるようにすることで、日本の発展をより感じられるようにする。</p> <p>☆技①</p>
	③日本の国際社会への復帰や産業の復興について調べる。	<p>日本はどのようにして国際社会に復帰し、産業を復興させていったのか。</p> <p>○「サンフランシスコ平和条約」や「国際連合への加盟」「産業の復興」について調べる。 ・1951年に48カ国と平和条約を結んだ。 ・1952年に占領が終わり、主権を回復した。 ・1956年に国際連合への加盟が認められた。 ・アメリカの協力や国民の努力によって産業が復興し、生活が向上した。 ○調べたことを基に、日本の国際社会復帰・復興はどのようにして行われたのか話し合う。 「日本は、アメリカの協力や国民の努力によって国際社会に復帰し、産業を復興させ、生活を向上させていった。」</p>	<p>●年表 ●写真：サンフランシスコ平和条約調印 ●グラフ：電化製品の普及</p> <p>□年表を読み取ることで日本と世界の国々がどのような関わりがあつたのか考えることができるようにする。</p> <p>☆技②</p>
	④1964年東京大会の開催について調べる。	<p>1964年東京大会にはどのような良い面と悪い面があつたのか。</p> <p>○1964年の東京大会について調べる。 ・東海道新幹線・高速道路 ・公害 「東京大会をきっかけに、日本は経済の高度成長を続けたが、そのかげで公害などの環境問題が起こつた。」</p>	<p>●年表 ●映像：東京大会 ●写真：東海道新幹線 ●写真：工場群</p> <p>□調べたことを年表にまとめ、短い期間に急速に発展していることに気付かせる。</p> <p>☆技②</p>

<p>⑤平和で民主的な国家の一員として、日本が抱える問題や、よりよい社会のあり方について考えをもつ。</p>	<p>日本には、どのような問題を抱えているのだろうか。</p> <p>○現在の日本が抱える問題や果たすべき役割について調べる。 〈国内の問題〉 ・人権問題 ・震災復興 ・エネルギー 〈外国との関係に関する問題〉 ・拉致問題 ・領土に関すること 〈世界の問題〉 ・環境問題 ・戦争、紛争</p> <p>○調べたことを基に、これから日本はどのような国を目指すべきか話し合う。</p> <p>日本は、震災からの復興、人権、領土などの国内の問題をはじめ、外国との関係や世界の問題がある。そして各国と協力して取り組む国を目指すことが大切だ。</p>	<p>●年表 ●写真：震災の様子 ●地図</p> <p>□国内の課題、外国との関係に関する課題、世界共通の課題に分類することで、様々な問題があることを多角的に考えられるようにする。</p> <p>☆関・意・態①</p>
<p>⑥2020年オリンピック・パラリンピック東京大会の意義について考えをもつ。</p>	<p>2020年オリンピック・パラリンピック東京大会はどんな目的のために行うのだろうか。</p> <p>○2020年オリンピック・パラリンピック東京大会のねらいを考える。</p> <p>・【海外との関係】 外国との関係を深め、さらに国際貢献したいから。</p> <p>・【震災復興】 震災の復興をアピールしたいから。</p>	<p>●年表 ●写真：1964年・2020年の新幹線</p> <p>□1964年とそれ以降を国際社会・経済・インフラ・技術・復興の観点で比較させる。</p> <p>☆思・判・表②</p>
<p>＜A児の課題に対する考え＞</p> <p>日本をさらに発展させ、世界へ平和を発信するためだと思う。平和になるためには、<u>私たちの世代が世界全体で団結することが必要だ</u>。そして日本をさらに発展させるためには、<u>環境問題や他国との関係などの問題を解決していくことが必要だ</u>。</p> <p>世界には、領土の問題や戦争、紛争、環境問題などまだ解決できていない重大な問題がある。私は、<u>そのような問題を政治家だけに任せるのではなく、自分で何ができるのかを常に考え、自分のため、世界のために行動したいと思う</u>。</p>		
<p>本単元において、自分の身近な人々も歴史を作ってきた先人なのだとすることに気づき、<u>更に未来の日本の姿を考えたことで、これからの社会形成に自ら積極的に関わろうとする意識をもつことができています</u>。</p> <p><u>自分も含めた現在を生活している人々の手で、これからの平和な社会を形成していこうという思いが見られる。つまり、社会への関わりについて考えている姿と言えるであろう</u>。</p>		
<p>まとめ</p> <p>⑦学習問題についての考えをまとめる。</p>	<p>今までの学習を振り返り、学習問題に対する考えを書こう。</p> <p>○今までの学習について振り返る。 ○今までの学習で重要だと思う出来事を年表にまとめる。 ○年表をもとに、友達と考えを発表し合う。 ○学習問題に対する自分の考えを答えを書く。</p> <p>戦後の日本は、日本国憲法の制定などの戦後改革を行い、平和で民主的な国家として出発した。その後も、国民の不断の努力によって国民生活が向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきた。そして、2020年の東京オリンピック・パラリンピックを契機によりよい世界に私たちが変えていくことを目指していく。</p>	<p>●年表 □国内の出来事と外国との関係の出来事を分けてまとめさせる。</p> <p>☆思・判・表②</p>
<p>⑧歴史を学ぶ意味について考えをもつ。</p>	<p>年表を使って、学習してきた歴史を振り返ろう。</p> <p>○年表を使って、学習してきた歴史を振り返る。 ○歴史学習を通して、分かったこと・気が付いたこと・思ったことを発表する。 ○歴史を学ぶ意味について考え、意見文を書く。</p>	<p>●年表 □人物の働きや文化遺産の意味に着目させる。 □過去を知るにとどめず、未来に目を向けさせる。</p> <p>☆知・理②</p>

VI 研究の成果

1 追究の視点や方法を用いた授業づくり

「追究の視点や方法 活用シート」を用いた指導を展開し、「考察シート」で明らかになった改善点をもとに次時の学習の見直しを図っていくことで「ゴールの姿」に到達できる児童が増えた。

ゴールの姿	戦後の日本は、日本国憲法の制定などの戦後の改革をおこなって、平和で民主的な国家として出発しました。その後も、国民の努力によって国民の生活は向上し、国際社会の中で重要な役割を果たしてきました。そして、2020年オリンピック・パラリンピック東京大会をきっかけとして、「よりよい世界を目指していこう」と、世界へ向けて私たち日本人が発信していきたいな。
児童の反応例	戦後日本は、サンフランシスコ平和条約に調印し、アメリカに支えられるようになったため日本国民の暮らしはよくなっていった。また、国際連合に加盟し、日本の地位は回復していった。しかも、1964年に東京大会を開き、世界からの日本を見る目もよくなっていった。また、道路や下水整備をしたことで、ますます国民の暮らしはよくなっていった。これからは戦争や環境問題を解決するために自分も世界の団結している人に加わりみんなでもっと発展するためにがんばることで日本がもっと発展していくと思う。
「ゴールの姿」に到達できた児童の数…39人中 38人	

2 社会との関わりを考えられる授業の工夫

追究の視点や方法を明確にした学習計画を立てることにより、社会との関わりについて考えようとする児童の姿が見られるようになった。

追究の視点や方法を用いて為政者の意図を考えさせ、「なぜだろう」と児童に疑問をもたせるような発問を工夫することにより、社会との関わりを意識させることができたと考えている。

VII 研究の課題

1 社会との関わりについて

政治単元や国際理解単元においての「1単位時間ごとに社会との関わりを考えさせること」や、「児童のゴールの姿」の妥当性について、検証を継続し考察する必要があると考える。

2 追究の視点や方法について

「何を」「どのような基準で」設定するべきなのかについては研究の余地がある。教師の視点としての追究の視点や方法の有効的な活用方法と、児童に追究の視点や方法を身に付けさせ、活用させるための具体的な手だてについても研究を進めたい。

平成28年度 教育研究員名簿

小学校・社会

第3学年及び第4学年分科会

学 校 名	職 名	氏 名
武蔵村山市立第二小学校	指導教諭	今井 一馬
江東区立越中島小学校	主任教諭	新田 一浩
豊島区立目白小学校	主任教諭	生沼 夏郎
江戸川区立大杉第二小学校	主任教諭	○ 岡 墻 暁史
町田市立忠生第三小学校	主任教諭	森内 陽介
武蔵村山市立第三小学校	主任教諭	北原 彰

第5学年分科会

学 校 名	職 名	氏 名
文京区立駕籠町小学校	主幹教諭	◎ 佐藤 樹里
千代田区立麴町小学校	主任教諭	木村 正太
世田谷区立経堂小学校	主任教諭	佐藤 智彦
西東京市立保谷小学校	主任教諭	○ 武田 理史

第6学年分科会

学 校 名	職 名	氏 名
港区立お台場学園港陽小学校	主幹教諭	○ 富 樫 学
目黒区立東山小学校	主任教諭	村上 千尋
大田区立池上第二小学校	主任教諭	土田 順子
葛飾区立青戸小学校	主任教諭	高橋 雄一
三鷹市立第六小学校	主任教諭	阿妻 洋二郎
東大和市立第五小学校	主任教諭	井上 寛介

◎全体世話人 ○分科会世話人

〔担当〕 東京都教育庁指導部義務教育指導課
指導主事 山崎 禎久

平成28年度

教育研究員研究報告書
小学校・社会

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成28年度第142号〕

平成29年3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号
電話番号 (03) 5320-6849
印刷会社 株式会社オゾニックス